

日本統合医療学会(21・22日、東京本郷の東大安田講堂)

集う

膨れ上がる医療費や相次ぐ医療事故、それに医師不足…と日本の医療はがけっぷちに立たされている。この先どこに向けて舵をとったら医療崩壊から立ち直れるのか。そのための羅針盤が「統合医療」かもしれない。

これまでの科学的な西洋医学と、漢方や鍼灸、カイロプラクティック(整体療法)、ヨガなどの東洋の伝統医学や代替医療とを統合して病気を予防する。これが日本統合医療学会理事長で東大名誉教授の渥美和彦氏(81)が提唱する統合医



合医療学会が、晩秋の東大キャンパスで開催された。

最初に講演を行った渥美氏は「たとえ統合医療の持つ多様な方法で人間の自己治癒力を活性化させてが

んを治すこともできる」と説明した

後、「特定の地域で統合医療を実践し、その安全性と有効性、経済性を検証するよう政府に要望している」と話した。

「伝統医学や代替医療は玉石混

療である。もともと20年ほど前にアメリカで始まり、多くの国々が国策として積極的に取り込んでいる。

この統合医療の第13回日本統

医療崩壊の危機救う羅針盤

交で、効果の疑わしいものもある。それゆえ臨床データをきちんと整理して科学的に検証していかねばならない。

ヤギを人工心臓で344日生かすという世界最長記録を25年前に達成するなど医療工学の世界的権威でもある渥美氏は「最先端医療に携われば携わるほど統合医療の必要性を感じる」とも語る。

政権与党の民主党は「統合医療の医療従事者の養成を図り、調査・研究機関の設置を検討する」とそのマニフェスト(政権公約)に掲げている。

来賓としてあいさつした鈴木寛文部科学副大臣も「日本の国家戦略として推進していきたい」と明言した。今後の展開を期待したい。(木村良一)